

山下理事長、3大学学長と懇談 北マリアナ諸島連邦知事ら専修大学を表敬訪問



北マリアナ諸島連邦のジャン・ババウタ知事はじめ上・下両院議員らが8月27日、山下徳夫理事長を表敬訪問した。

正午過ぎに神田校舎を訪れた一行9人は、山下理事長、出牛正芳学長、小林陵二石巻専修大学学長、田中貞美専修大学北海道短期大学学長、松浦洋治専務理事らと懇談。北海道短大と同連邦のジュニアカレッジとの交流などを視野に国際交流・親善について、約1時間にわたって話し合った。

北マリアナ諸島連邦は南太平洋北端部に位置し、サイパン、ロタ、テニアンなど14の島々からなる米国自治領。山下理事長は、衆院議員時代の1975年に日本・北マリアナ諸島友好議員連盟を創設。自ら会長となり同連邦における経済、産業の発展に寄与してきたことから昨年、名誉市民となっており、現在も日本・北マリアナ友好親善協会会長として日本との友好親善に尽力している。

〔10月15日/ニュース専修2面〕

市民ら200人が聴講 第36回文学部夏季公開講座



夏の市民講座として毎年好評を得ている「第36回文学部夏季公開講座」が9月28、29日の両日、市民や学生ら約200人が参加して開かれた。

今回は、「文化と自然の交響(シンフォニー)」を統一テーマに、文学部の教授陣と落語家の立川談四楼ら8人が講義を展開。出席者はメモを取りながら熱心に受講していた。

全講座終了後、荒木敏夫学部長、並木信明教授から、全8講座を受講した29人に受講証書が授与された。

[10月15日/ニュース専修2面]

生涯学習のための提携講座 鶴岡・北上・両津市で4教授が講演

専修大学エクステンションセンターでは生涯学習の推進の一助として全国の各自治体と提携、公開講座の実施に協力している。今夏の4つの講座で本学教員が講演した。

鶴岡市民大学講座＝山形県鶴岡市(全4講座のうち2,3回目を担当)



今年度の統一テーマは『環境問題を考える』。7月20日、鶴岡市中央公民館で田口勇経営学部教授が「環境と科学技術～川、湖、海の『水』を守る」をテーマに、水の環境問題の現状と対策について講演し、海の日この日、一人ひとりがあらためて環境問題を考えようと提案した。(出席者42人)

※3回目は12月14日(土)開催予定。

北上市民大学＝岩手県北上市(全10回のうち5,6回目を担当)



8月1日、北上市生涯学習センターで広瀬裕子法学部教授が「エロスという名のエネルギー～秩序の形成と変化のエネルギー」のテーマで、性をキーワードにして近代社会を読み解くという観点から、セクシュアリティの諸相などについて講演した。(同63人)



8月22日、同センターで橋本達雄本学名誉教授が「万葉集のたのしみ方～東歌、防人の歌、恋の歌」をテーマに講演した。東国庶民の歌を集めた東歌とその庶民が派遣されて北九州の沿岸防備にあたった防人たちの歌を読み、その恋の様相や妻子と別れてはるばると行く悲しみなどを歌った歌を取り上げて論じた。(同72人)

文化講演の集い＝新潟県両津市



9月5日、佐渡島開発総合センターで「北前船の時代と佐渡の文化」と題して青木美智男文学部教授が講演した。

近世後期に北前船が日本海に登場、それが日本経済の主役として活動し出すのは、佐渡金山の盛衰と深い関係があること、寄港地は文化が著しく発展し、それが江戸時代後期の佐渡の姿であることを中心に語った。

(同106人)

〔10月15日/ニュース専修2面〕